

帝京平成大学大学院臨床心理学研究科臨床心理学専攻(専門職学位課程)
2025年度入学試験問題(心理学専門) 解答

受験番号		氏名	
------	--	----	--

1	②	2	④	3	②	4	③	5	②
6	①	7	④	8	③	9	④	10	⑤
11	②	12	②	13	③	14	④	15	①
16	②	17	①	18	⑤	19	③	20	④

(1) Higgins, E. T. の自己不一致理論

人は、現実自己が、理想自己あるいは義務自己と不一致の状態では不快感情が生じ、一致した状態を達成するよう動機づけられていると考える理論で、自己についても本人の視点と、重要な他者の視点が想定され、6つの自己表象が想定されていることが特徴である。また、どの自己間に不一致が生じているかによって生じる不快感情は異なるとされている。

(2) 統合失調症のドーパミン仮説

脳内の過剰なドーパミンが統合失調症などの精神疾患の幻覚・妄想などの陽性症状を引き起こしているとする仮説。抗精神病薬の多くは薬理作用として抗ドーパミン作用を持っている。しかし最近では、グルタミン酸やセロトニンなどドーパミン以外の神経伝達物質の異常も発症のメカニズムに関与していると考えられている。